

令和6年度外部評価会 集計表(農業者)

所属名: 鹿児島地域振興局農政普及課

課題名② 新たな販路開拓を目指した茶産地の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5			・茶価の低迷 ・茶の課題、問題点をわかりやすく問題解決に向けて動いていただきありがたいです。	・引き続き生産者と関係機関が連携して、課題解決が出来るよう取組を進めたい。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	5				
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	5			・県, 市, JAの連携は農家にとって心強いです。 ・男性ばかりでなく女性も参加しやすい研修会の開催 ・県経営者クラブのように夫婦連名での案内文はどうか？ ・勉強会, 情報交換女性にも情報共有 ・後継者が元気になったのでは？	・関係機関間の連携は引き続き重要と考えていることから, 次年度以降も継続して勉強会などの取組も行いたい。 ・女性を対象とした活動は重要と考えていることから, 女性部の支援も進めてまいりたい。 ・この3年間で青年活動の参加率は向上しており, 生産者も同様に感じている。PR活動に向けては, 女性部からお菓子をつくり盛り上げたいとの声もいただいております。
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	5				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5			・スピード感のある対応をしていただきありがとうございます。課題をわかりやすく説明, 対応していただいているので, 松元の生産者, 気持ちの変化があり助かっております。イオンでの販売に結びつけるまでの過程も勉強でき皆さん勉強になっております。	・引き続き生産者にとって希望の持てる産業になるよう, 生産者と関係機関が連携して取組を進めたいと考えます。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	5			・「まつもと茶」としてうまくPRしていると感じた。有機・米国輸出と販路拡大への取組に期待を感じた。 ・お茶の現状や新たな取組を知ることができて良かったです。	
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	5				

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：鹿児島地域振興局農政普及課

課題名②	新たな販路開拓を目指した茶産地の育成	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	6	1		・お茶に限らず有機農業の重要性が増しており、また、外国向けの販路拡大も大事である。	・有機茶＝輸出向けの原料となることから、確実に有機JAS認証を取得できるよう、生産者の支援を引き続き行いたい。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	7				
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	7			・有機茶に向けた取組が進んでいる。 ・情報誌を20回提供しているとのことですが、どの時期に提供しているのか教えてほしい。	・情報誌は不定期での発行となっているが、生産者の必要な時期に必要な情報を意識している。細かな情報で申し上げると、降雨が続いた際には、病気の発生時期などを予測し、防除時期を示すことで発生を抑える指導もできた。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	6	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	7				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	3		・有機茶、てん茶は今後いろいろな課題が出てくると思われる。今から効果的な取組がなされていくものと期待します。 ・成果が上がっていくよう今後も継続した指導が必要と思う。	・当地区の有機茶に向けた取組は始まったばかりであることから、今後生産者と解決すべき課題を整理しながら、地域としての方向性を共有し活動を進めたい。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	5	2			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	6	1		・松元の地域特産物である茶の現状を踏まえ、新たな販路確保に向けた取組であり、今後も継続していただきたい。 ・まつもと茶の産地全体を見たとき、どのように産地を作っていくのか、生産者と関係機関の意思疎通を図りながら進めていってほしいと思います。 ・有機の拡大による販路拡大、消費拡大については、お茶だけでなく他の作物の展開の参考になると思われる。 ・茶は輸出増が著しい対象であり、農家の苦境への対策が必要ではあるが、鹿児島市においては、松元に偏った品目なので、課題の設定や活動の成果について概ね適当とした。 ・輸出用の茶、特に抹茶の需要が伸びているので、取り組みないのでしょうか。消費を外国人旅行者へもできませんか。 ・いろいろな研修や取組には若い人の参加が多く、新し取り組みになっている。今までのやり方と変えたりしている。個別面談会は、生産者も考え方が変わるのでいいと思います。	・「まつもと茶」の認知度向上に向けた思いは、生産者共通の認識に変化していることから、引き続き生産者と連携し、新たな販路開拓に向けた取組を進めたい。 ・個人ではなく産地としての育成を念頭に、生産者と関係機関が目指すべき姿を共有し取組を進めたい。 ・消費拡大に向けては単一品目に限らず横の繋がりをつくることも重要と考えていることから、様々な連携活動を模索したい。 ・「てん茶」を加工した製品が「抹茶」に該当する。当地区でも、令和7年度中の竣工を目指して「てん茶工場」の整備に向けた計画を進めている。将来的には「抹茶」の生産までを生産者が行うことも考えられるが、当面は「てん茶」の製造が優先され则认为。 ・消費拡大は、自らが主体的に宣伝する方法が基本であるが、多様なSNSの普及に伴い、近年はリピーターを介しての消費拡大が大きいと考えている。まずは地元のファンをつくることを軸にしたい。一方で、イオンの販売は、インバウンドの需要も期待できると伺っており、取組を通じて生産者と検討を進めたい。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	6	1			

新たな販路開拓を目指した茶産地の育成



鹿児島地域振興局 農政普及課
技術普及係

1 鹿児島地区茶業の現状と課題（栽培面積等）

- 全国的に栽培面積が減少する中で、**鹿児島県（鹿児島市）の荒茶生産量は増加**
- 鹿児島県（鹿児島市）の**栽培農家数**は、**直近の10年間で半減**

項 目		全 国	静岡県	鹿児島県	鹿児島市
栽培面積	H25	45,400ha	18,300ha	8,660ha	265ha
	R5	36,000ha	13,300ha	8,140ha	249ha
増減（R5-H25）		▲9,400ha	▲5,000ha	▲520ha	▲16ha
荒茶生産量	H25	84,800t	32,200t	25,600t	637t
	R5	75,200t	27,200t	26,100t	973t
増減（R5-H25）		▲9,600t	▲5,000t	500t	336t
栽培農家数	H25	—	—	2,885戸	229戸（20工場）
	R5	—	—	1,338戸	111戸（11工場）
増減（R5-H25）		—	—	▲1,547戸	▲118戸（▲9工場）

1工場の栽培面積は拡大

支援対象

【出典】鹿児島県茶業振興対策資料より

本日の発表内容

1 鹿児島地区茶業の現状と課題

2 普及指導計画の位置づけと取組

- (1) 有機栽培茶の取組拡大を目指した技術支援
- (2) 販路開拓を目指した取組
- (3) 将来の担い手育成支援
- (4) ヒト・モノを繋ぐPR活動

3 令和7年度以降の普及指導計画

1 鹿児島地区茶業の現状と課題（生産量・単価）

- ドリンク用原料等の生産に伴い、**生産量は直近10年間で5割増加**
- 一方、**お茶の単価(kg/円)**は、いずれの茶期においても**3割程度低迷**

項 目		一番茶	二番茶	三番茶	秋冬番茶	合 計
平成24年産（A）	生産量	242t	146t	128t	154t	670t
	平均単価	1,736円	858円	625円	357円	1,012円
令和4年産（B）	生産量	352t	242t	211t	210t	1,015t
	平均単価	1,247円	606円	433円	307円	732円
比 較 B/A (減少率)	生産量	145.5%	165.8%	164.8%	136.4%	151.5%
	平均単価	71.8%	70.6%	69.3%	86.0%	72.3%

【出典】鹿児島市及びJAさつま日置

1 鹿児島地区茶業の現状と課題（茶の消費動向等）

- 茶飲料（ペット茶）の普及等に伴い、リーフ茶（急須等で入れるお茶）需要は減少
- 輸出原料として有機栽培茶の需要が拡大（取引価格も大きく上昇）

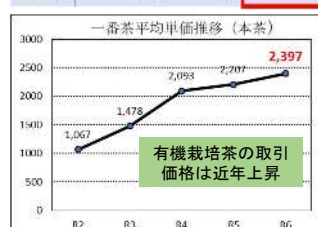
〈茶の消費量の推移〉※全国



【出典】総務省「家計調査年報」及び 県茶市場聞き取り

〈有機栽培茶の取引価格（単位：円）〉※本県

	R6年度 （有機）A	R6年度 （一般）B	比較 （A/B）
一番茶	2,397	1,403	170.8%
二番茶	1,110	620	179.0%
三番茶	1,069	425	251.5%
四番茶	726	457	158.9%
秋冬番茶	760	362	209.9%
合計	1,554	877	177.2%



2 普及指導計画の位置づけと取組（目標と実績）

- 実需者ニーズに対応した「選ばれる」茶産地を目指して計画を作成
- 地域一帯の取組（有機栽培、PR手法等）を通じて将来の担い手を育成

項目 （主なもの）	現状 （令和5年度）	目標 （令和6年度）	実績
1 有機栽培茶の取組拡大を目指した技術支援			
・有機栽培の取組農家数	5戸	6戸	9戸
・有機栽培の取組面積	5.2ha	15ha	54ha
・産学官連携による実証	蒸気除草	蒸気除草・防除	蒸気除草・防除
2 販路開拓を目指した取組支援			
・新たな防除暦の策定	台湾のみ	米国＋台湾	米国＋台湾
・地域農産物の連携支援	—	1件	2件
3 将来の担い手育成支援			
・青年農業者の認定	—	1名	1名
・情報誌等の提供	15回	15回	20回

1 鹿児島地区茶業の現状と課題（有機栽培の課題）

- 地域では令和4年度から本格的に有機栽培に向けた取組を開始
- 生産者が取組の必要性を理解していることから、普及は出口対策などを支援

〈茶の有機JAS認証〉

- 3年以上化学的に合成された農薬や肥料等の使用を避ける。
- 農林水産省に登録された認定機関において審査を受ける。



〈課題〉

- 有機栽培は①害虫対策と②除草対策が大きな課題
- 転換期間中は収量減少に加えて品質も低下
- 「転換中の茶＝一般茶」の評価（生産者の不安な期間）

〈対策〉

- 有機栽培に係る技術支援や情報提供
- 有機栽培茶の更なる価値創出と有機転換に向けた支援

普及が担う
役割とは？

生産者が安心して
有機栽培に取り組める土台（基礎）づくり

2 普及指導計画の位置づけと取組（支援体制）

- 技連会（県・市・JA）を中心に活動を展開・情報の共有を図る
- 取組内容に応じた支援体制により、管内11戸の経営体の円滑な支援を展開

計画達成に向けた 具体的な取組内容	農政普及課 （技連会）	県農業開発総合センター	関係企業	大学（学校）	他自治体 他団体
1 有機栽培茶の取組拡大を目指した技術支援					
・蒸気防除・除草試験（産学官連携）	○	○	○	○	○
・先進地視察研修の誘導	○				
・情報誌の提供	○				
2 販路開拓を目指した取組支援					
・EU向け紅茶及びてん茶の製造	○	○	○		
・荒茶求評会の開催	○		○		○
・地区栽培管理暦の作成	○	○			○
3 将来の担い手育成支援					
・プロジェクト活動の支援	○	○			○
・技術員の技術向上研修会	○	○	○		

- 有機栽培の課題(防除・除草)を蒸気の力で解決する**コンソーシアムに参画(R4~)**
- 機械の**導入費用**など課題は残るが、**防除・除草の両面で効果が確認された。**



- 有機栽培に係る課題解決を図るため、先進地視察研修先の提案・調整等を支援
- 青年部、女性部それぞれの視点に立った研修内容を提案し実施



- 生産者が必要とする時期を捉え**情報誌を適宜発行**（年間20回 ※LINEで提供）
- 印刷して**事務所に掲示・ファイリングする農家も確認**

〈令和6年度は〉

- 病虫害の対策
- 気象災害対策
- 整枝時期等の周知

※LINEが難しい方
には直接配布

[illegible]

○県内茶商と連携し、新たな販路としてEU向けの「紅茶」を令和5年度から製造（2年連続で取引数量は増加〔令和6年度は約1tを出荷〕）

○米国に向けて「てん茶」の試験製造（令和6年度は約4tを出荷）

[illegible]

お茶の審査会(当日紅茶も審査)



2 (2) 販路開拓を目指した取組支援（荒茶求評会）

- 毎年開催していた荒茶求評会に**個別面談会**を設けるよう提案(R4～)
- 茶商の意見を踏まえ、地域で**かごしま茶輸出サプライチェーンに登録申請(R6)**



荒茶求評会（お茶の審査）



個別面談会（1対1で対話）

〈令和5年度開催時〉

茶商から「台湾向け防除の取組を初めて知った。」

茶市場で取組を標記するためには
かごしま茶輸出サプライチェーンの申請が必要

技連会

取組を支援

令和6年度中に茶市場と取引の多い**7工場全ての登録**を目指す。

2 (2) 販路開拓を目指した取組支援（新たな管理暦）

- 現場に即した栽培管理暦の作成に向けて令和4年度から**生産者代表も招請**
- 実需者（茶商等）**から選ばれるお茶を目指して、対象国を拡大した暦を検討

〈令和4年度～〉

○各地区の**生産者代表を招請**

〈令和6年度〉

○米国＋台湾防除に対応した**実証ほ設置**
(各地区の生産者代表に協力を依頼)



令和7年度栽培管理暦の検討会

令和7年度 茶園の管理ごよみ

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作業項目	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み
管理項目	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み	茶摘み

※本表は、茶園の管理に活用するための目安です。実際の状況に応じて調整してください。

県内初！

〈令和7年度～〉

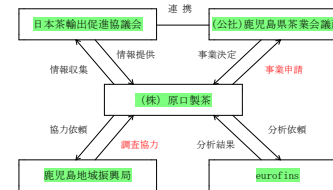
「台湾＋**米国**」両国に対応

➡ 防除効果の確認を行う

2 (3) 将来の担い手育成支援（青年農業士の誘導）

- 「茶の有機JAS認証取得に向けた実態把握（残留農薬検査）と課題整理」について就農4年目の若手農業者と**プロジェクト活動**を実施
- 円滑な実践活動や課題解決が図れるよう、**事業の活用を誘導**して取組を支援
- 令和7年2月7日(金)に「**青年農業士**」の認定を受ける見込み

【体系図】



事業活用に係る検討会



残留農薬検査結果



病害虫診断



取組状況紹介

令和7年度以降も取組を継続

地域共通の課題として
地域生産者との更なる共有を誘導

2 (3) 将来の担い手育成支援（技術指導員の育成）

- 技術員の世代交代に伴い、**技術向上を目指した勉強会(R5～)**を開催(4回/年)
- 当日は**技術的な課題解決**のほか、**補助事業等の支援状況**なども共有
- 取組を通じて、**技術員の連携強化**や、**補助事業の活用等**を誘導



室内検討会（お茶の審査なども実施）



現地検討会

○県＋市＋J Aの**連携強化**が図られ、効率的な巡回活動を展開

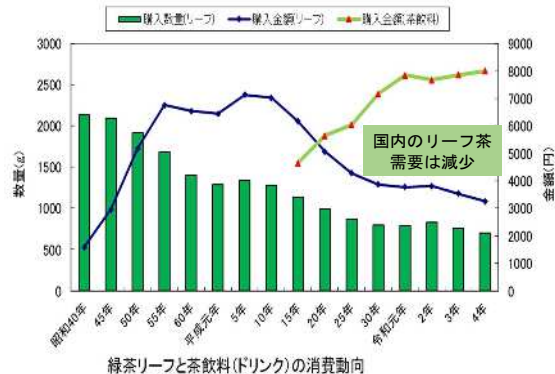
○蒸機の補助事業による導入を3件支援（補助事業による導入は地域初）
補助事業を活用し、国際水準GAPの取得・更新等を4件支援

取組の継続を通じて更なる連携強化を目指す

2 (4) ヒト・モノを繋ぐPR活動（現状・課題整理）

- お茶のPR活動は、10年前と大きく変わっていない。（飲ませるPR活動）
- 足元の消費者が見えているか。改めてPR活動を見直すことが必要

〈茶の消費量の推移〉※全国



【出典】総務省「家計調査年報」及び 県茶市場聞き取り

お茶のPR活動は
＝飲ませるPR

手に取る人が限られる。

〈目標〉

- 老若男女問わず
- 知ってもらう
- 飲んでもらう
- 手に取ってもらう

生産者と一緒に検討

2 (4) ヒト・モノを繋ぐPR活動（ヒトを繋げる取組）

- 「100円茶屋」を独自にアレンジした「まつもと茶屋(300円)」を展開
- 県立短期大学と連携(R6～)し「まつもと茶」を使ったお菓子を製造・活用



2 (4) ヒト・モノを繋ぐPR活動（情報発信）

- MBC南日本放送の「かごしま4」で「まつもと茶」のPRを実施
- 「まつもと茶」ボトルを100本製作・提供し、まつもと茶の認知度向上を目指す。



まつもと茶ボトルの配布先

- 県立短期大学お茶研究会
- かごしまchaガール
- 鹿児島市茶業女性部
- メシヤパーク108(飲食店)
- 坂之上製茶SABO(飲食店)
- Table of Smile(体験施設)
- 有村茶家(宿泊施設)

発信力のある人や施設に提供



かごしま4の撮影

2 (4) ヒト・モノを繋ぐPR活動（ヒトを繋げる取組）

- 「飲ませる」PRではなく「飲んでいただく」PRを目指した飲み比べの実施
- 令和5年度は茶業関係者で実施→令和6年度は学校を巻き込んで展開

消費者を惹きつけるためには…
「自ら」そして「楽しんで」



茶工場毎の飲み比べ



学校連携によるPR活動



お茶づくり体験

〈参考〉

市農林水産まつり売上

- 62,700円(R4年)
- 119,300円(R5年)
- 164,100円(R6年)

2 (4) ヒト・モノを繋ぐPR活動（ヒトを繋げる取組）

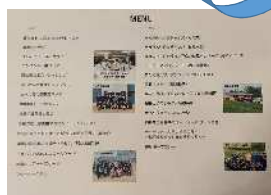
- 鹿児島市×鹿児島女子高校×サンロイヤルホテルと連携し「まつもと茶」をPR
- サンロイヤルホテルやイオンモール鹿児島で「まつもと茶」の料理(商品)を提供
- イオンとは、現在も連携活動を続けており、2月から「まつもと茶」の販売開始



事前授業（4回）

料理発表会（7/9）

お茶入りキンパの販売



〔10/10～11/10〕
イオンモール鹿児島で
お茶入りキンパの販売
〔2月～〕
イオンモール鹿児島で
「まつもと茶」の販売開始

2 (4) ヒト・モノを繋ぐPR活動（モノを繋げる取組）

- お茶と地域の食材を組み合わせで新たな商品・循環を創出（坂之上製茶協力）
- 令和6年度は、約3か月に渡り「坂之上製茶SABO」で消費者に提供



ままりあ農園（日置市）の
イチゴを使った商品

てのんでファーム（鹿児島市）の
レモンを使った商品

3 令和7年度の普及計画（目標と必要な取組）

- 次年度以降の普及の役割
- 確実な有機JASの認証取得支援、労働力軽減に向けた支援
- 地域内の「ヒト」・「モノ」の循環、担い手の育成

項目(主なもの)	現 状 (令和6年度)	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1 有機栽培茶の取組拡大を目指した技術支援					
・取組継続農家数	9戸	9戸	9戸	9戸	9戸
・有機栽培の取組面積	3.2ha	13.6ha	18.5ha	46.6ha	54.3ha
・有機栽培層の検討	—	素案作成	(未定)	(未定)	(未定)
2 有機茶葉の生産安定に向けた支援					
・有機生葉の収益性検討	—	検討	(未定)	(未定)	(未定)
・有機茶葉の製造拠点の設置	—	検討	1件	1件	2件
3 販路開拓を目指した取組支援					
・地域農産物の連携	2件	3件	(未定)	(未定)	(未定)
・学校連携によるPR活動	—	2件	(未定)	(未定)	(未定)
4 将来の担い手育成支援					
・青年農業者の認定	—	課題設定	1人	(未定)	(未定)



〈2月～〉
イオンモール鹿児島で販売開始
〈3月中 ※期間中〉
県内のイオン17店舗で販売
※是非お買い求めを！！

御清聴ありがとうございました。